



第5回国東市武蔵町人権フェスティバル

心をつながぐまぢづへり

12月9日、武蔵セントラルホールで第5回国東市武蔵町人権フェスティバル（主催 武蔵町人権教育総合推進会議（文部科学省指定事業）・国東市）が開催され、およそ600名が参加しました。

主な行事内容

1 人権作文朗読

人権教育・啓発推進協議会武蔵支部長賞

『言葉は心のカガミ』

赤澤大聖さん（武蔵東小4年）

フェスティバル実行委員長賞

安見 瞬さん（武蔵西小5年）

笛田英世さん（武蔵中3年）

2 人権コンサート

歌ぐみ はぜの木

（昨年が続いて2度目）

3 蛇谷太鼓

蛇谷伝説にまつわる話の調査結果の発表

と演奏（武蔵西小全校児童）

4 人権作品コーナー

保育・幼稚園児、小中学生の作品や一般公募の作文や写真などの展示

参加者の声（アンケートから）

- ・中身が濃くとても感動しました。調べ学習も良かったです。来年も来たいと思います。
- ・初参加ですが、とても感動しました。はぜの木のトークと歌に胸の熱くなる思いでした。



▶武蔵西小学校の皆さんが「蛇谷太鼓」を熱演



▲人権作品の展示



▲会場には多くの方が訪れました

武蔵西小の蛇谷太鼓は、調べ学習の様子、太鼓練習の苦労話を含め、真剣な取り組みの成果は最高でした。

明るく住みよい町、学んだことを生かしていく町、益々のご活躍を期待しています！

ほか、100名ほどの参加者の声をいただいています。ありがとうございました。

新年おめでとうございます！

企画課

男女共同参画係です

毎月、少しずつですが、男女共同参画についての記事をお届けしています。

なかなか、現実的には「男女共同参画」と言つと、皆様には、なんだか少し堅苦しい気がするのではないのでしょうか？ 文字にしてみると少々あらたまった気がしますがね。でも実は、本当はみんなの生活の中に、また、日常の中に、どこにでも存在しており、なげなく過ごしていた男女のことに、ちよつと気を留めて考えてみようということなのです。すい分昔は「男とは…」「女とは…」と区別をされていたこともあり、その名残が今も少し残っていたりします。（固定的性別役割分担意識のことを指します。）

今の時代、本当は、男性・女性という前に、一人の人間として、ということがとても大切であると思います。人が人として生きる権利をみんな尊重するー原点はそこだと思つのです。原点をしっかりと考えてみることで、人を思いやる心が自然と生まれていきます。人が人として生きていく上で、このことがどんなに大切か、ちよつと気を留めて考えてみましょう。

現在の社会の様子を見るにつけ、かなり殺伐とした感じがすると思いませんか？ 毎日のように報道される殺人事件、いじめが原因による生徒の自殺、保護者であるは